

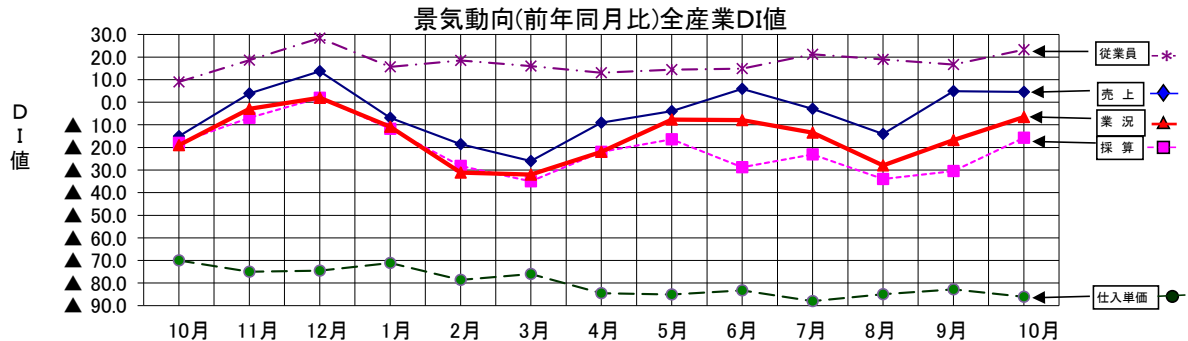
早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 10月分

【10月の概要】

DI値は回復基調にはあるが、物価上昇によるコスト負担増で厳しい見方続く

業況判断を示すDI値は、「採算」(+14.7)と「業況」(+10.2)が2ケタ台の改善を示したものの、依然としてマイナス水準にある。先行き見通しについても、「採算」DIで前月比9.6ポイント改善したものの、力強さに欠けている状況が続いている。

寄せられたコメントでは、「全国旅行支援」の開始や年末の繁忙期に向けての期待感もある一方で、新型コロナ第7波による人手不足が影響を及ぼしているほか、電気料金をはじめ物価上昇に歯止めがかからず、コスト負担増が企業経営の重荷となっており、厳しい見方が続いている。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2021年 10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	2022年 10月
売上	▲15.0	▲3.9	▲13.7	▲6.9	▲18.5	▲26.0	▲9.0	▲3.9	▲5.9	▲2.9	▲14.0	▲4.9	▲4.6
採算	▲18.0	▲6.9	▲2.0	▲11.8	▲28.2	▲35.0	▲22.0	▲16.4	▲28.7	▲23.1	▲34.0	▲30.4	▲15.7
業況	▲19.0	▲2.9	▲2.0	▲10.8	▲31.1	▲32.0	▲22.0	▲7.7	▲7.9	▲13.5	▲28.0	▲16.7	▲6.5
仕入単価	▲70.0	▲75.0	▲74.5	▲71.1	▲78.6	▲76.0	▲84.5	▲85.1	▲83.2	▲88.0	▲85.0	▲82.8	▲86.1
従業員	9.0	18.6	28.4	15.7	18.5	16.0	13.0	14.4	14.9	21.2	19.0	16.7	23.2

- ・プラス幅が増加したDI値：従業員6.5ポイント（人手不足局面へ）
- ・マイナス幅が減少したDI値：採算14.7ポイント、業況10.2ポイント
- ・プラス幅が減少したDI値：売上▲0.3ポイント
- ・マイナス幅が増加したDI値：仕入単価▲3.3ポイント

向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
8月	▲8.0	▲23.0	▲22.0	▲59.0	25.0
9月	5.9	▲22.6	▲10.8	▲67.7	22.6
10月	4.6	▲13.0	▲7.4	▲65.7	22.2

- ・見通しが改善したDI値：採算9.6ポイント、業況3.4ポイント、仕入単価2.0ポイント、従業員▲0.4ポイント（需給均衡局面へ）
- ・見通しが悪化したDI値：売上▲1.3ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	管工事	新型コロナが沈静化しても、さらなる円安による悪影響が心配である。対策を検討中。
	リフォーム	新型コロナによる人員不足は現場作業に多大な影響を与え、加えて電気代や燃料費の負担が増大している。
製造業	鋼材	現場工事の人手不足が相当深刻。客先より施工依頼があっても対応できないことが多くなってきている。
	溶接	コロナによる影響は様々だが、小規模事業者は欠勤者が多くなると生産量に影響してくる。
卸売業	食品	電気料金の高騰が異常である。今後、「光熱費倒産」もあり得るのではないか。
	青果	秋の観光・旅行需要が期待されるが、物価上昇により消費行動が消極的にならないか懸念される。
小売業	眼鏡販売	各種価格の高騰により、経費負担増が予想される。
サービス業	設計	建築設計業界は資材の高騰などで総工事費が増大し、設計の内容を見直す場面が増えている。
	タクシー	多少ではあるが稼働状況が活発になってきているが、最賃見直しや物価上昇傾向で採算ベースには程遠い。
	運輸	商品値上げによる消費行動の鈍化により、物量の減少が懸念される。□